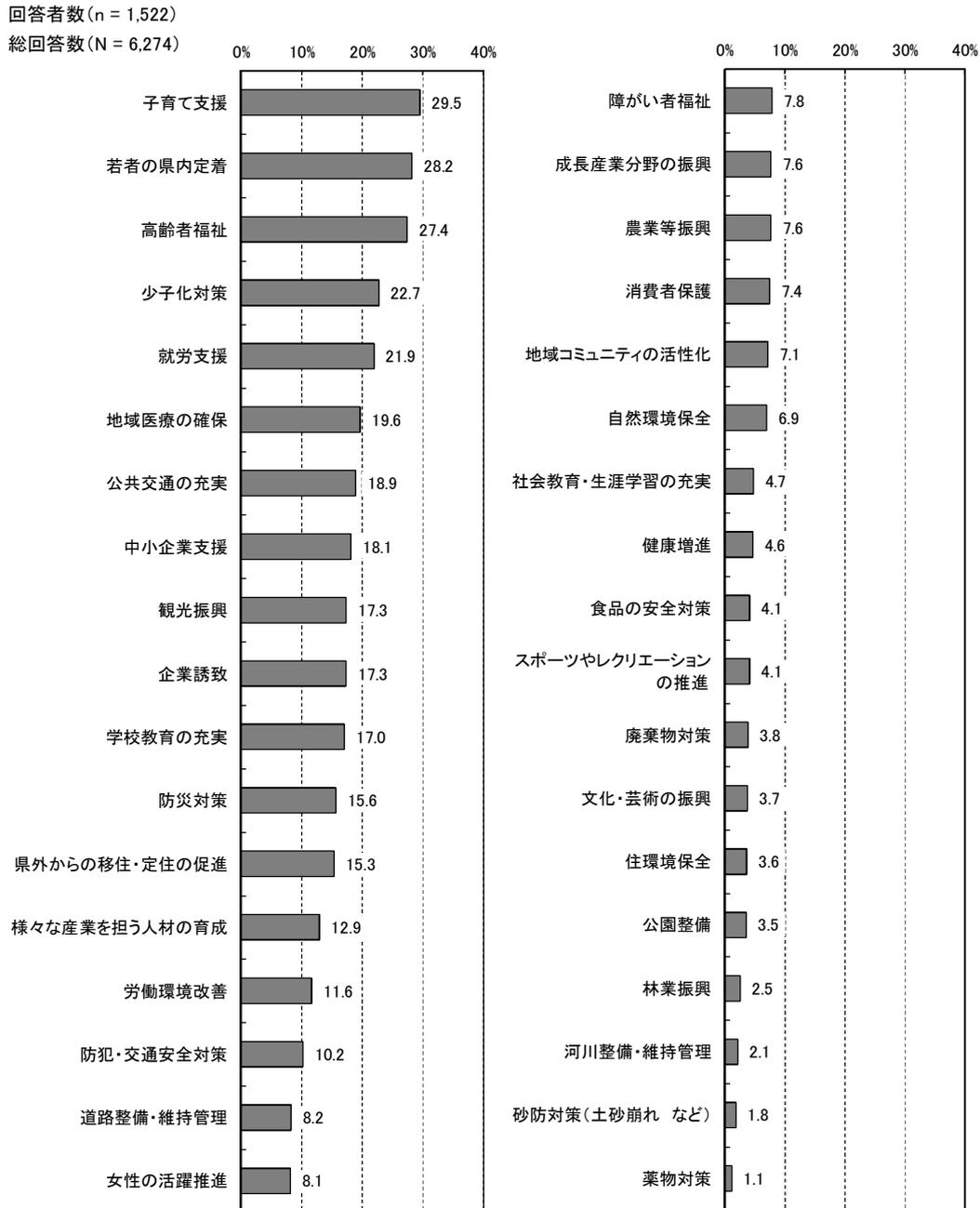


問11 重点的に進めるべきだと思う分野

問11 少子高齢化に伴う、産業や地域社会の担い手の減少及び国内市場の縮小などによる国内外からの消費の呼び込みや所得の獲得における課題に対応するため、あなたが、重点的に進めるべきだと思う分野はどれですか。（5つまで）

全体（図11-1）で見ると、「子育て支援」が29.5%と最も高く、次いで「若者の県内定着」（28.2%）、「高齢者福祉」（27.4%）の順となっている。

図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野



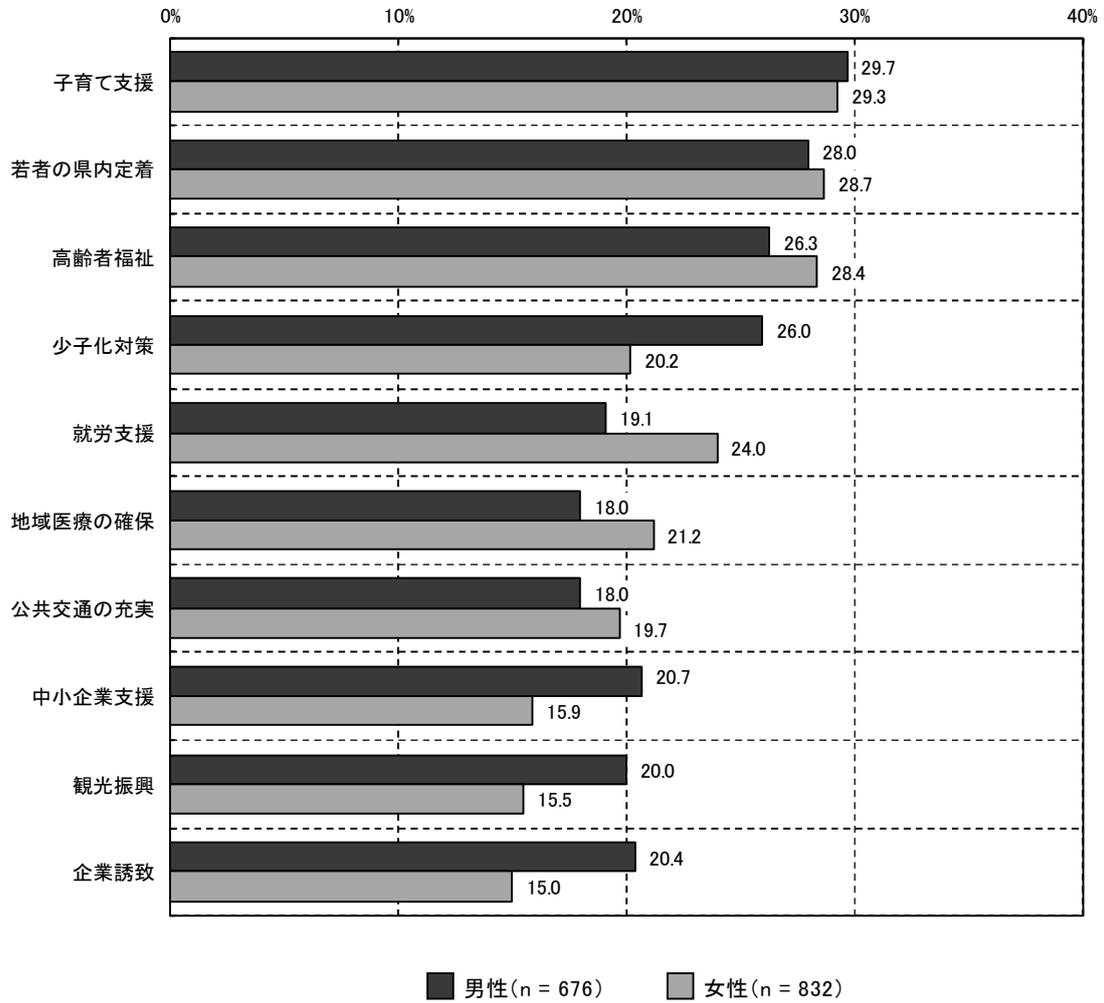
※ 第38・39回調査では、「特に重要だと思う県の施策」の設問で、選択肢は32施策で5つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・住環境保全：騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全
- ・農業等振興：農業（畜産業・水産業含む）振興

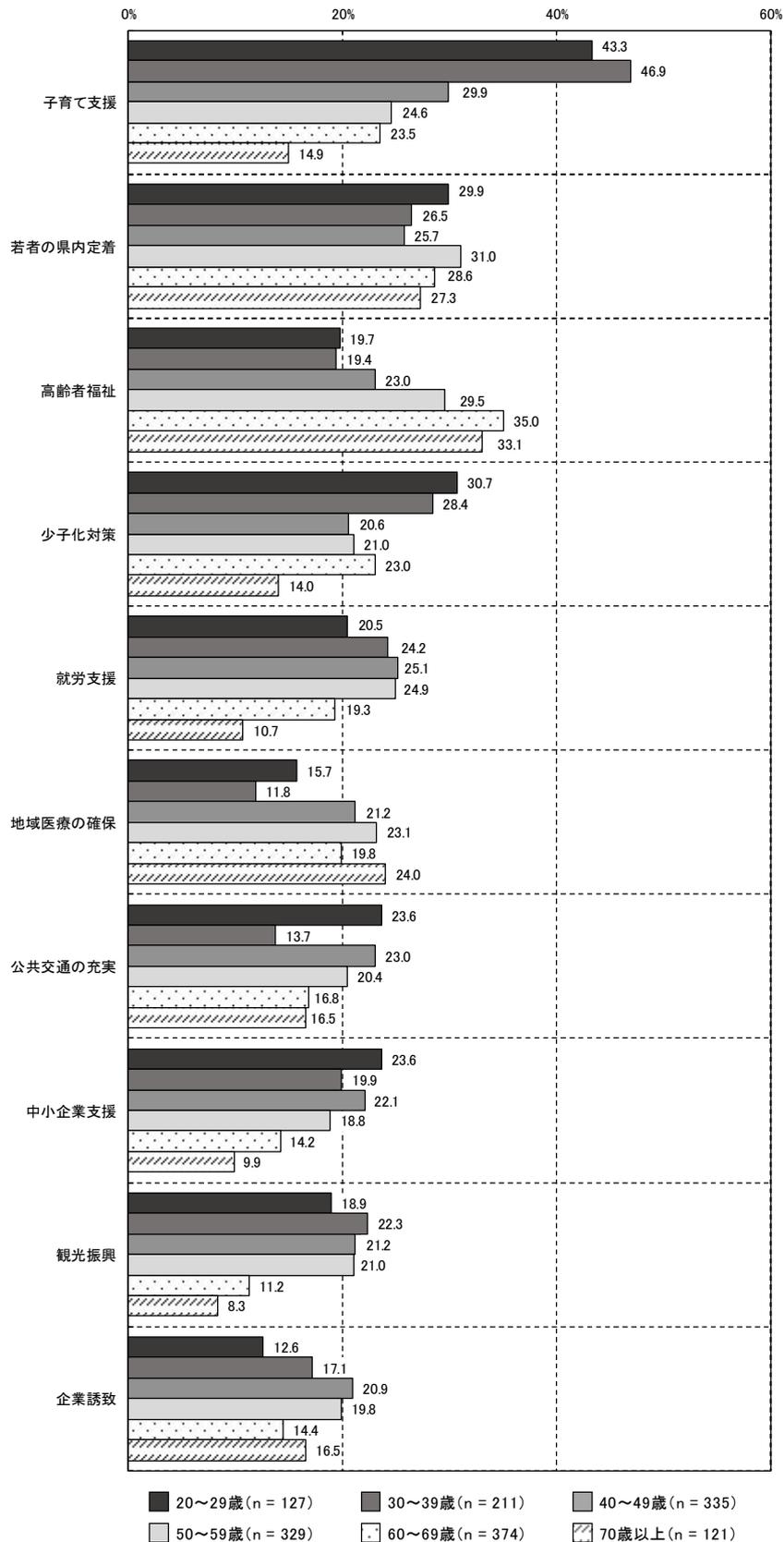
性別（図 11-2）で見ると、男女ともに「子育て支援」が最も高くなっている。「少子化対策」では男性が女性より 5.8 ポイント高く、「就労支援」では女性が男性より 4.9 ポイント高くなっている。

図 11-2 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



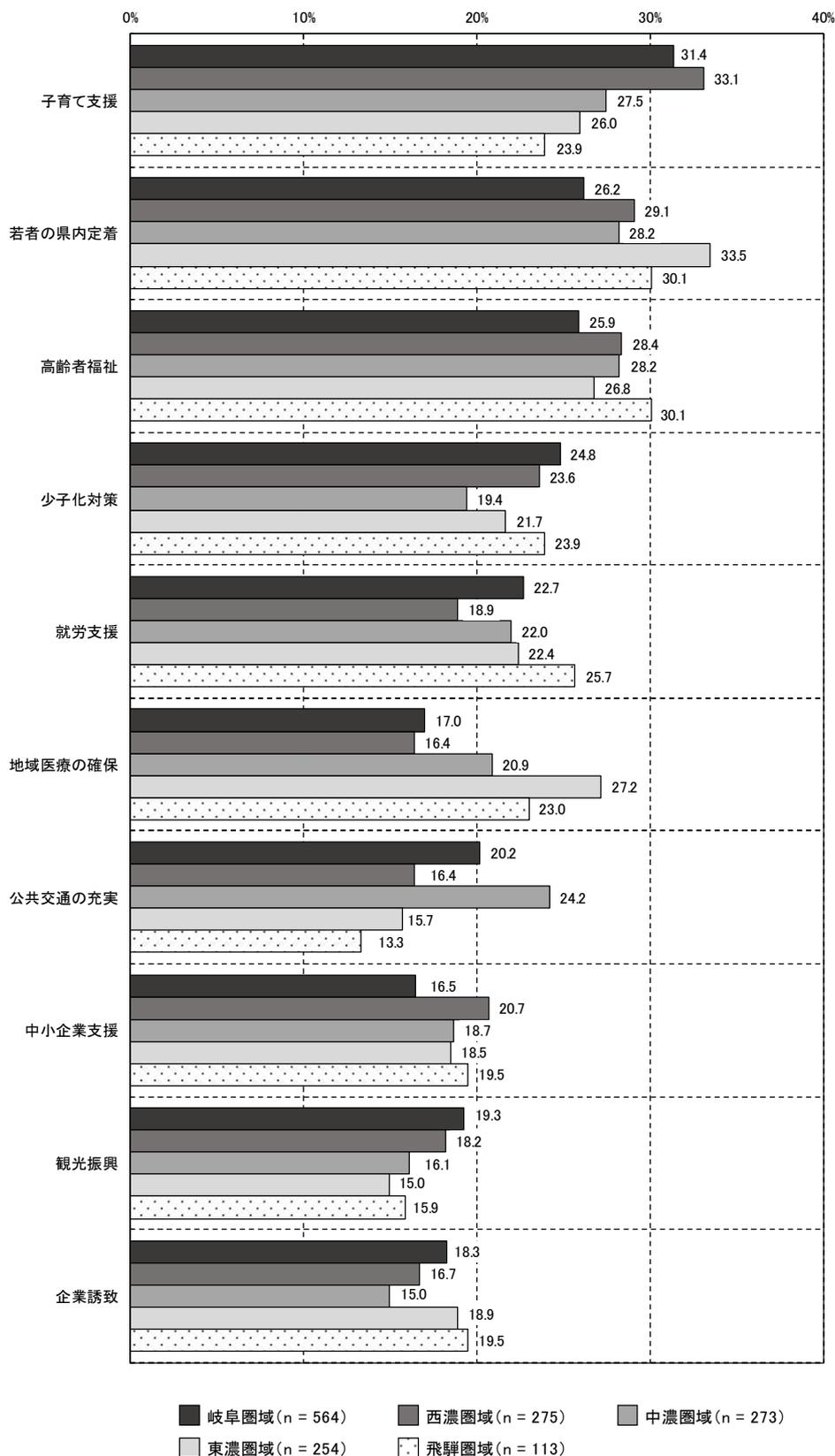
年代別（図 11-3）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「子育て支援」が最も高く、そのうち 30 歳代が 46.9%と最も高くなっている。50 歳代は「若者の県内定着」、60 歳代、70 歳以上は「高齢者福祉」が、それぞれ最も高くなっている。

図 11-3 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



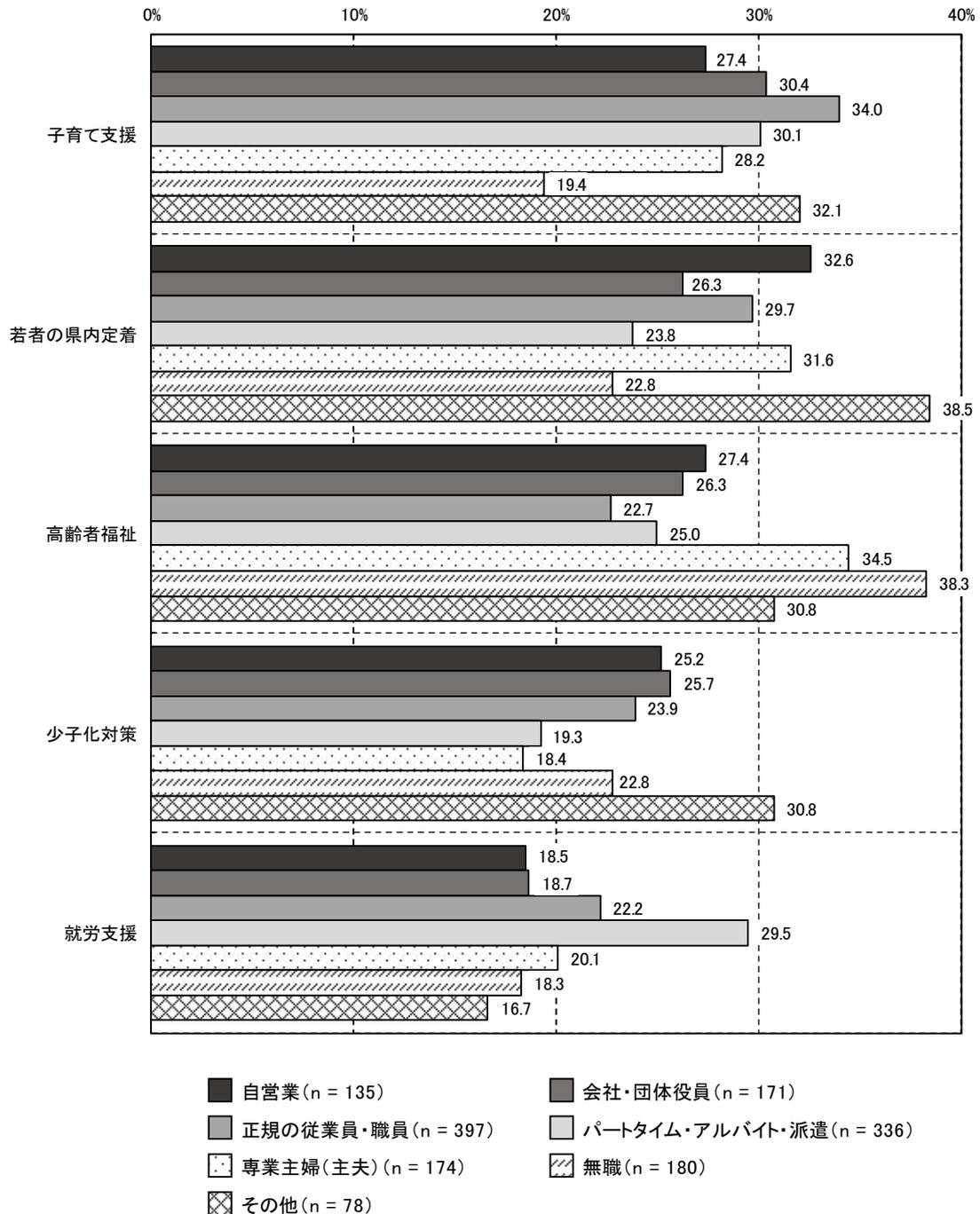
居住圏域別（図 11-4）で見ると、岐阜圏域、西濃圏域は「子育て支援」が最も高く、そのうち西濃圏域が 33.1%と最も高くなっている。中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「若者の県内定着」が最も高く、そのうち東濃圏域が 33.5%と最も高くなっている。中濃圏域、飛騨圏域は「高齢者福祉」でもそれぞれ最も高くなっている。

図 11-4 【居住圏域別】重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



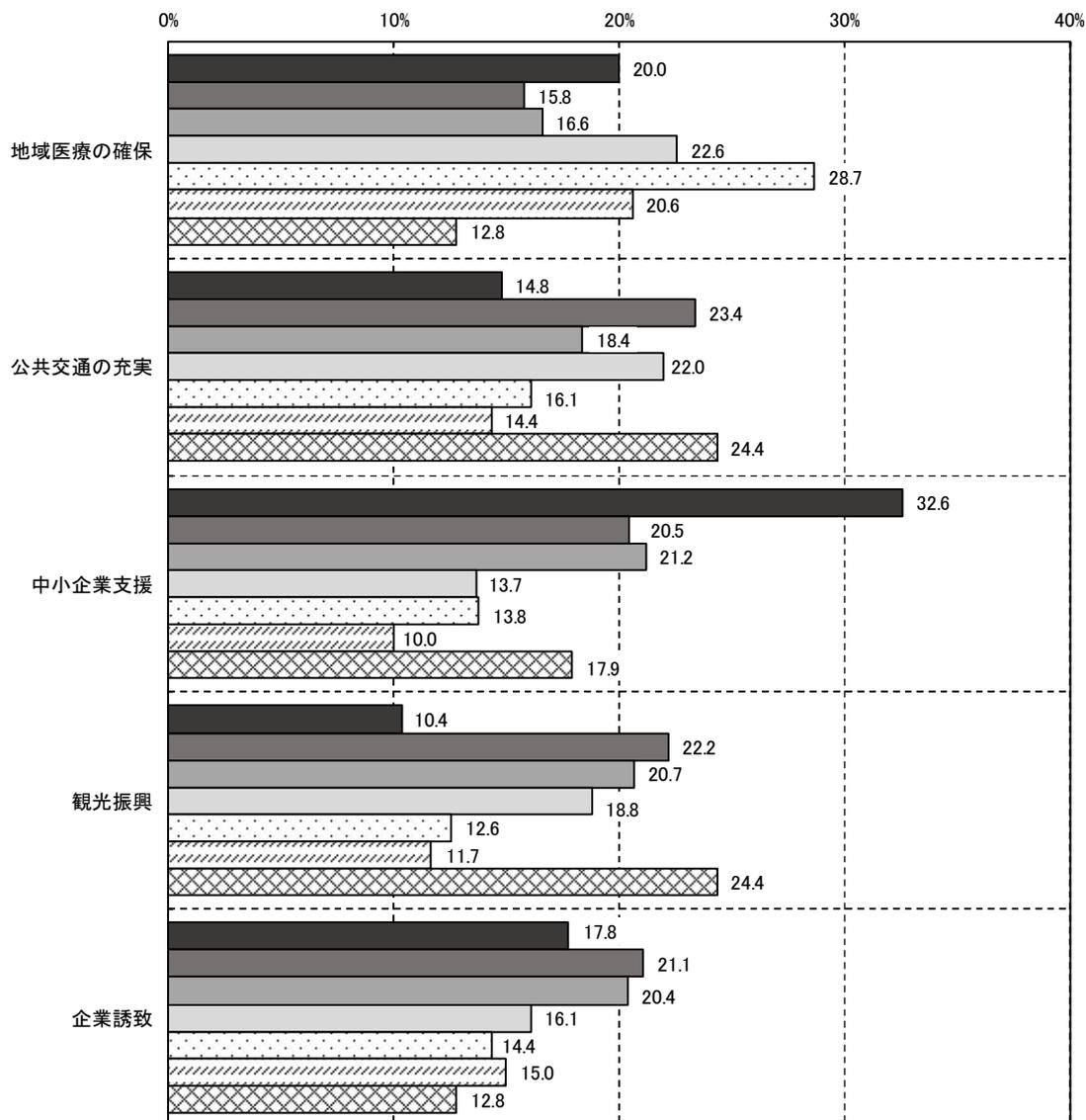
職業別（図 11-5）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣は「子育て支援」が最も高く、そのうち正規の従業員・職員が 34.0%と最も高くなっている。自営業は「若者の県内定着」、「中小企業支援」がそれぞれ 32.6%、専業主婦（主夫）、無職は「高齢者福祉」が最も高く、そのうち無職が 38.3%と最も高くなっている。その他は「若者の県内定着」が 38.5%と最も高くなっている。

図 11-5 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-5 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



- 自営業 (n = 135)
- 会社・団体役員 (n = 171)
- 正規の従業員・職員 (n = 397)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (n = 336)
- 専業主婦(主夫) (n = 174)
- 無職 (n = 180)
- その他 (n = 78)

※ その他には、自由業、学生を含む。